

グリーンスローモビリティ(略して「グリスロ」)は、すでに道内では登別で導入されている。今回、層雲峡に登場したのは、今後の導入を前提とした実証運行を兼ねたものだ。

上川町にある層雲峡で昨秋開催されたイベント「季節のイルミネート」(9月17～10月16日)。期間中、環境負荷の軽減や脱炭素社会を目指して、上川管内では初めて登場した(10月1～16日)のが、グリーンスローモビリティ(電動バス)だ。

感じられて良かった「環境に配慮した良い取り組みだと思う」などの声が多く寄せられた。今回は無料だったが、「有料(200～300円程度ならば)でも利用したい」と

# 環境負荷の軽減や脱炭素社会めざし 実証走行グリーンスローモビリティ

上川町などが出資する「株大雪山ツアーズ」が実施主体。観光庁からの補助で群馬県の電動バス1両を借り受け、「奇跡のイルミネート」にちなみ「いるみん号」とネーミングして走行させている。

いるみん号は9人乗りで最高時速は19キ。一度の充電で走行時間2時間、30キほどの距離を走ることがができる。その運行管理を担ったのは、電動キックボードなどのEV(電動自動車)モビリティ事



業を先駆的に手がける東川町の観光企画会社「アグリテック」。期間中の16日間で2029人の利用があり、「実証実験としては利用者数が多かった」(同社)。利用者の感想として「坂道が楽」「窓がなくて自然を

いった意見もあった。

層雲峡エリアは、道内有数の温泉街で、紅葉の名所でもある。そのためアグリテックでは「多くの人が車を利用するため、

渋滞だけでなく排気ガスやCO2など環境の負荷が懸念されマイカー規制や公共バス等の活用推進対策も従来から検討されています」。こうし

た中で、少しでも層雲峡の自然の豊かさを体感しながら、大雪山国立公園内にある「北の山岳リゾート」として他の温泉街と差別化を図る狙いがあり今回の実証実験を行ったという。

